

学校だより 10月号



ふたみにし



2018年(平成30年)9月28日

本は心の栄養

教頭 藤井 生也



秋の夜長、虫の音が心地よい季節となりました。10月からはいよいよ今年度学校生活の後半に入ります。学校行事・学年行事、校外学習など盛りだくさんの活動が予定されています。子どもたち一人一人が心身ともに学習面でも生活面でも実りの多い秋となっていけるように活動の充実を考えています。各ご家庭におかれましても、学校と家庭というお互いの立場で力を合わせていけますようにご支援・ご協力をお願いします。

暑さも一段落した秋は過ごしやすく、「食欲の秋、読書の秋、スポーツの秋」などといわれ、秋の味覚を楽しんだり、秋の夜長に読書をしたり、落ち着いて勉強したり、さわやかな空気の中で運動したり、何をするにも絶好の季節です。

さて、読書が好きな子どもは、一般的に豊富な知識をもち、思考力や表現力が豊かです。読むことは、学習の基盤です。行間の世界を想像したり、新しい知識や情報を得たりすることができます。その力は、自分で発見し新たなものを生み出す力にもつながります。子どもたちが、手にする本には、内容が豊かで挿絵の質も高く、大人が読んでも味わい深いものがたくさんあります。読書の秋、お子さんと一緒に読書の時間を作ってみられてはどうでしょうか。

「熱く戦え！笑顔かがやけ！西っ子運動会」

子どもたちが、運動会での日頃の練習の成果をご家庭や地域の皆様に披露できる喜びと、その成長した姿を見ていただけることへの感謝の気持ちを全力の演技で表してくれることを期待しています。そして、子どもたちにとって最高の運動会になるよう教職員一同全力で取り組みますので、ご声援をよろしく願いいたします。

運動会が、天候に恵まれ、予定通り開催できることを願っておりますが、秋雨前線や台風21号の影響により天候が危ぶまれます。つきましては、昨日配布しました「運動会についてのお願い」を再度ご確認の上、ご協力をお願いします。



がんばるよ！運動会

3年生 心を一つに協力しよう！

1組 井田 一千斗

ぼくが運動会でがんばりたいことは、リレーです。なぜかという、今年も代表リレーに出られなかったけど、その分リレーで2回走れるので、作戦を立てて、2組や3組に勝てるようにがんばりたいです。

ぼくがチームを引っばって、ほかの人がぬかされても、大逆転できるようにがんばりたいです。

1組 岡添 真帆

わたしが運動会で頑張りたいことは、大玉おくりです。理由は、全校生です。きょうぎだから、みんなできよりよくするのをがんばりたいです。そして運動会最後のきょうぎだからがんばりたいです。

ぜったいに1位になりたいです。

2組 神代 響希

ぼくが運動会でがんばることは、2つあります。1つ目はリレーです。リレーでは、チームワークが大切になります。とくに、バトンパスでつまらないようにきれいにパスをできるようにしたいです。

2つ目は、タイフーンです。タイフーンでは、とんですぐしゃがむ所ととぶ所をよりはやくしたら、かつことに近づきます。なので、みんなできよりよくしてはやくしたいです。

2組 坂本 陽菜

わたしががんばることの1つはリレーです。理由は、リレーは走って楽しいし、けっかが楽しみだからです。そして、前は走るのがおそくてこわかったけど、今は大すきになりました。なぜなら、友だちが「がんばろうね、いっしょに。」と言ってくれたからです。運動会が楽しみです。

3組 前川 琴

わたしが運動会でがんばりたいことは、全部です。理由は、全部がんばったチームこそが優勝できるからです。優勝するために大事なことは、みんなの力と声とタイミング・心を合わせることです。すべてを合わせることできたら優勝できると思うので、全部がんばりたいと思います。

3組 渡邊 瑠樹

ぼくが運動会でがんばりたいことは、リレーとタイフーンと綱引きです。リレーはバトンパスがカギなのでがんばりたいです。タイフーンは、4人の心をそろえて1位を目指したいです。それと、ぼくは、はしっこなので力でふんばって3人をひっぱりたいです。綱引きは全員で力を合わせて、心を1つにがんばりたいです。優勝して、大きな大きなトロフィーをとりたいです。



人権教育について



人権教育担当 竹中 寛子

例えば・・・。お子さんに「人権ってなに？」と聞かれた場合、保護者の皆さんは何と答えますか？答えに困ってしまう方もいらっしゃるのではないかと思います。人権とは、人が人らしく生きていくために、すべての人に平等に与えられた権利のことですが、このまま伝えたところで漠然としていて、子どもには上手く理解できないでしょう。では、どのように説明すればいいのでしょうか？

子どもの人権を考えたときに、まず思い浮かぶのが「いじめ」問題です。また、大人からの体罰、両親からの暴力や虐待も大きな問題です。更に言えば、子どもに過度の期待を抱き、習い事や勉強において結果を求め、競争社会に追い立てる風潮も人権にかかわる事柄と言えるのではないのでしょうか？

では、大人の人権はどうでしょう。高齢者や身体障害者の方々が、社会の中で生き生きとした生活を送るために社会の様々な障壁をなくしていこうと、「バリアフリー」が進められています。一方、よくハラスメントという言葉を目にします。セクハラ、パワハラ、モラハラ、マタハラ、そういった言葉が報道番組では後を絶たず、社会問題として取り上げられています。このように見てくると、私たちが日頃生活しにくいと感じたり、不公平や不平等感を感じたり、大きく心を傷つけられたりする事柄全てに「人権」がかかわっていることがわかります。

人権とは、何か特別な問題ではなく、私たちを取り巻く社会や環境の風潮であり、一人一人の価値観でもあります。それを、子どもたちにわかりやすい言葉で説明するならば、「自分の大切さとともに、他の人の大切さを認めること」と言われています。生活していくうえで、小さな思いやりをもつこと、相手の気持ちを考えて行動すること、が人権につながっていきます。他人を大切に思うには、まず自分が周りから大切な存在であると実感できることが大切です。子どもであれば、まずは一番身近な家族から愛情をたくさんもらっているかが、人権の根本になってくると思います。自分が大切にされているという自覚があってこそ、学校生活における様々な場面において、周りの人のことを考えて行動することが大切であるという指導を受け入れられる心の余裕が生まれてくると思います。

そして、子どもの人権感覚を育成していくためには、学校、家庭、地域、社会全体の大人たちの人権感覚が正しくあるかどうか重要です。今一度、家庭、地域、職場など身近な環境の中で、お互いが気持ちよく過ごしているか、話し合ってみるのも、人権について考えるいい機会になると思います。

